

(仮訳)

プレス・リリース

2015年7月2日
バーゼル銀行監督委員会

バーゼル銀行監督委員会による
監督措置の実効性評価と監督当局の説明責任に係る報告書の公表

バーゼル銀行監督委員会（以下、「バーゼル委」）は、本日、監督措置の実効性評価と監督当局の説明責任に係る報告書を公表しました。同報告書は各国監督当局がどのように自らの監督政策および監督措置の効果を定義・評価して対応しているか、またどのように政府、議会および国民等に対する説明責任を果たしているかについて、各国の実務の調査を行ったものです。

世界的な金融危機を受けて、基準設定主体および各国当局は金融規制の枠組みの大幅な見直しを開始しました。バーゼルⅢの実施は、規制を強化し銀行の強靭性を向上するのに必要かつ重要な要素です。しかしながら、規制の改善のみでは金融機関や金融システムを一段と健全で安定的なものとするには不十分です。すなわち、規制改革は実効的な監督を伴う必要があります。

このバーゼル委の報告書では、監督当局が近年、監督戦略や監督実務を見直し強化していることが示されています。監督はより包括的で介入的となり、銀行業務のより多くの側面を考慮するようになってきました。また、監督当局は自らの活動の及ぼす影響をよりよく理解するための努力を行うようになってきています。既に多くの法域で、監督当局の活動が金融機関および金融システムの健全性や安定性の確保にどのように貢献しているかを示すための実務が生み出されています。さらに、本報告書は、適切に設計された説明責任体系とはどのようなものか、またこうした体系が個別行に係る情報の秘匿性を確保しつつ、どのように監督当局の独立性を高め透明性を向上させることができるかについて詳述しています。

バーゼル委は、グローバルにシステム上重要な銀行を中心とした監督実務の進展状況を引き続きモニタリングしていきます。